

私たちの活動や意見を
仲間で共有します
会費は県と日本平和委
員会の活動も支えます

土浦平和の会ニュース

発行：土浦平和の会
事務局：土浦市神立町2664
ホームページ：//heiwatutiura.
web.fc2.com/

「憲法を守る」だけではダメ 世界に目を向け積極的に 行動を！高遠さん講演

5月3日水戸市千波湖公園で行われた2015憲法フェスティバルは五月晴れの下、1300人の参加で盛り上がりました。午後には、国際ボランティア活動家の高遠菜穂子さんが「イラクから見た日本」と題して講演。「憲法9条の会の方々は、国内で9条を守るとよく言われるが、世界の情勢は、ただ守ると言っていればいいという状況ではない。積極的な働きかけが必要となっている。」と訴えました。今号は増ページで講演内容をお伝えします。

イラク・ヨルダンに滞在

こんにちは。海外でボランティア活動をするようになって15年目ですが、その内12年をイラクで費やしました。先週帰国しました。

今回はイラクとヨルダンに滞在し、イラクでは緊急

支援活動をしていました。イラク戦争は03年に始まりました。今日は昨年のお話を中心にさせていただきます。私が事件に巻き込まれてちょうど昨年で10年でした。この2014年はイラク戦争最悪の年でした。事件直後は隣国ヨルダンから遠隔操作的支援を余儀なくされていま

したが、最近は年に1～2度イラクにも入っています。事件に巻き込まれたファルージャという町です。アメリカから最も激しい攻撃を受け、最も多くの民間人が犠牲になった町です。2009年からはそこに1～2週間滞在して支援を行っています。戦争開始10年目の2013年頃からやっと復興の動きが見え始めました。建物やソフトの面で。



講演する高遠さん

私はこのファルージャとラマディで医療支援をしていました。複数・重度の先天性異常の赤ちゃんが多かったです。双子がくっついて生まれたり。生まれてくる赤ちゃんの14.4%に異常が受けました。それを受けて論文発表したり、訴えたりしても国際社会は反応しませんでした。そこで第三者の私がこれを記録して公表しました。それでもファル

ージャまで来て医療支援してくれる日本人の団体が見つかりませんでした。「カンパ集めますからそこへ行くのは勘弁してください」というような感じでした。

アメリカ人支援者

しかたなく私は一人でファルージャに入りましたが、アメリカ人の支援者はいっぱいいました。アメリカ人は嫌われているんだけど、支援しようという良心的な人もいます。特に20代、30代の若い人たち。この人たちが医師を連れてきて手術してくれました。日本人も一人の医師がきてくれました。モリオカ医師が戦争やけどを負った子供たちを診てくれました。このようにアメリカ人の医療チームがイラク人を救ってくれることは最大の平和貢献になっていると思います。私の目的でもあります。そこに日本人のお医者さんも加わってくれるようになりまして。それが2013年のこと。で、2014年の4月にまた来ますねと言ってファルージャを去って1カ月後事態は急変しました。(2面へ)

総会会場を変更 しました

5月31日(日)13時から行う土浦平和の会総会(詳細前号既報)の会場が4中地区公民館に変更になりました。

イラク政府軍が弾圧

イラクの政府軍が攻め込んできました。これは初めてのことでなく、13年の1月にもありました。ファルージャでは12年から毎週金曜日にデモが行われていました。お祈りをした後何万人もがデモをします。それが徐々に大きくなっていき、バグダッドから60キロも離れたこの町に政府軍の戦車がやってくるのです。デモをけちらすのです。ある日、病院がごった返しました。救急救命の部屋の床は血で真っ赤になりました。その日だけで死者7人、負傷者は65人。普通のデモをしていた人たちです。私が知っているだけでも3回このような弾圧がありました。その中でも最大だったのが13年の12月28日のものでした。テント村めがけてバババーンと撃ったのです。ところが世界のマスコミはこれをIS（イスラム国）に対する政府軍の戦闘だと報じました。実態は、きっかけは革命軍と政府軍との戦いでした。その最中に手薄になった国境や県境の警察署や庁舎を占拠したのがISだったのです。その時から大量の市民の移動が始まりました。政府軍による空爆もこの頃から始まりました。地上戦も激しくなりました。13年末から14年にかけての数カ月でファルージャとラマディから40万人の避難民が生まれました。家を捨て砂漠にテントを張ったり、廃墟に住んだりしました。

避難民260万人

国連も慌てました。支援物資を近くまで運んでも戦

百里ヶ原の基地近くに住み、半世紀以上反戦地主として「自衛隊は憲法違反！」として百里裁判闘争を含めたたたかい続けてきた川井弘喜さんが、去る4月9日79歳の生涯を閉じた。遺言により献体し葬儀は行われなかった。百里基地反対同盟の大黒柱として、世界に二つとない軍事基地のど真ん中に一坪運動の成果として誘導路をくの字に曲げさせた百里平和公園の園長でもあった。

平和公園の一角に一望百里と銘打って、小屋付きの展望台を自力で組み立て、2月11日の初午まつりや夏の若者中心のキャンプを立ち上げ、映画や手品を披露して参加者を楽しませた。陶芸などもお得意で、根っからの野人の風格に魅かれたものである。数年前、脳梗塞で倒れるまでは、私は初午まつりなどでお会いするのを心待ちにしていた。

土浦から北東約38キロの小美玉市にその百里基地がある。いまは民間機が自衛隊基地と共用の茨城空港として、見学者や乗降客でにぎわっている。町村合併前は小川町と呼ばれていた。戦前は海軍航空隊の基地があり、敗戦の1年前は米艦載機に繰り返し爆撃を受けた。敗戦後、飛行場は解体され開拓地となり、約150戸の人たちが入植した。痩せた赤土の土地では、作物はまともに育たず借金ばかりが増えていく貧しい村落だった。そんな中で、1955年幡谷村長は町議会

闘のために目的地に運び入れられなかったのです。食べ物も水もなくなりました。そこで亡くなっていく人もいました。その後も避難民は増え続け、現在では260万人に膨れ上がっています。結局約束した14年4月の現地支援には入れませんでした。外部からの緊急支援行動だけでした。今回の帰国もいろいろな所に緊急支援を要請するためのものです。避難民を200万人位受け入れているクルド人自治区があります。私たちは今ここ

に自衛隊基地誘致を提案、防衛庁は翌年の56年に、百里基地設置計画を発表。百里基地に反対する開拓農民等と町長などの基地推進派が、町を2分するたたかいに発展していった。細かい経緯は別の機会に譲るが、1964年9月基地反対同盟解散、同再建の運動の中で、一坪地主運動が提唱され、深谷喜八、川井弘喜、高塚惣一郎さんらの所有地が当てられ当時約75人の一坪地主が誕生した。滑走路と平行して走っている誘導路に深谷喜八、

川井弘喜さんらの土地が一坪共有地・百里平和公園としてクサビのように食い込み基地機能を半減させている。基地を一望に見

リレー随想

自衛隊は憲法違反！ 百里基地闘争の反戦 地主川井弘喜さん逝く

下ろす西側の旧射撃場山には「自衛隊は憲法違反」の大看板が立っている。

いま憲法を無視して、安倍自公政権が戦争する国づくりに急ピッチで狂奔している。茨城空港と言う平和な装いを凝らし、共用化の陰で風化しつつある危険な自衛隊の実戦基地である百里基地にもっと目を向け、60年にわたる百里基地のたたかいの歴史を若い人たちに引き継ぐことが川井さんの遺志にも報いることではないかと感じている。土地の買収のための脅しや懐柔策なども退け、戦争のためには土地は渡さないと百里闘争に生涯をささげた川井弘喜さんのご冥福を心より祈りたい。(山口雪雄)

を拠点に活動しています。同じイラクの中でも治安は天国と地獄程も違います。そこでも帰国する頃テロ事件があったと聞き、徐々に不安が広がるようになってきました。ここにモリオカ医師も来てくれて診療にあたってくれています。

現地の夏は50度にも

現地は夏には50度を超えることもあります。朝から45度もあります。ですから

脱水症状で死ぬ人も出てきます。せっかく空爆から逃れてきても避難地で脱水で命を落としてしまうのです。冬は冬で砂漠気候なので寒くなる。雨が降れば粘土質でドロドロ、ぐちゃぐちゃ。寝ることもできない。募金で夏は冷風扇、冬はストーブを購入してテントに置いているが追いつかない。避難民が多すぎるのです。国連も手を焼いています。戦争にはどこからかどんどん資金が供給されているのに、避難民を支援する金は集ま

らない。悲しくなります。

260万人の避難民はどうして出たのでしょうか。最初は政府の空爆を逃れる人たちでした。その後昨年6月にモスルがISに占拠されてから急増したのです。

私たちはその前から、世界に向けてイラクの避難民が増え続けている現状を訴えてきました。が、世界の反応はゼロでした。この日本からも何の反応もありませんでした。国連人権委員会にも私は記録を基に徹夜で英文のレポートを書き提出し、スピーチもしてもらいましたが、反応はありませんでした。市民の要望を聞いてそれをイラク政府に聞き入れるよう働きかけないとISは手に負えなくなるよと進言しました。

シーア派とスンニ派

今のイラク政府はシーア派、デモをやっていたのはスンニ派です。彼らがデモで訴えていたのは、「反テロ法で我々スンニ派をやたらに逮捕するのはやめてください。死刑にするのはやめてください。仲間を釈放してください。」ということでした。国際人権団体もずっとそれを指摘していました。私も日本でそれを2005年から訴えてきました。スンニ派を見つければ逮捕状なしで連行できるのです。「男狩り」です。拷問の末に殺し、「ISを処刑した」と宣伝します。遺体は全裸でお腹を切り裂かれて内臓を取り出されています。

スンニ派狩り

もともとのイラクではイスラム法を採用せず、ヨーロッパに倣った家族法を用

いていました。シーア派もスンニ派もなく生活していました。結婚も自由で父親はシーア派で母親はスンニ派という例も珍しくなかった。それがサダムフセイン時代まで続いていました。イスラム法を採り入れたのはその後です。それからおかしくなったのです。宗派差別が起こり出しました。宗派對立が基で離婚した人もいます。反テロ法によるスンニ派狩りが激しくなったのです。

IS(イスラム国)

モスルの市民もスンニ派狩りに怒っていました。そこに現れたのがIS。「あなた方をイラク政府から解放するためにやってきました」「あなたたちは自由です。もうスンニ派狩りに怯えなくてもいいんです」との訴えに市民は呼応してしまいました。政府(警察)はモスル市内のいたる所に検問所を設けていましたが、ISはすべてそれらを蹴散らしました。市民は大いに喜びました、最初の1か月くらいは。夜6時以降は外出が禁じられていましたから。

公務員・弁護士も避難

ところが1か月もすると公務員や弁護士はISに認められず、逃げ出す人が始まりました。ISが本性を現し、市民を抑圧し始めたのです。女性は目だけを出した黒い布に身を包むようになりました。歴史的建造物を破壊したり、少数民族を惨殺するのを見てスンニ派の人たちもISを疑問視するようになりました。あれはイスラムではないと言った人たちは次々に処刑されました。これでまた避難民が増えま

した。

去年8月には、キリスト教徒とヤジリー教徒がISの攻撃対象となりました。キリスト教徒は、改宗するか人頭税を払えと迫られました。嫌だと言った人たちは首をはねられました。彼らはクルド人自治区へ逃げました。ヤジリー教徒はトルコやシリア国境へ逃げました。逃げた先で惨殺されました。これは大事件だと中東や欧米のテレビで一日中放映されました。ヤジリー教徒の女性議員がバグダッド議会で訴えました。「助けてください。このままではヤジリー教徒が絶滅します」と泣き崩れました。日本では全く報道されなかったようです。

米軍が空爆開始

直後にオバマ大統領がイラク空爆を決断します。ところが日本では「アメリカはイラクを空爆するな」という声が上がります。現地では、特に政府軍によって大きな犠牲者を出したファルージャとラマディではアメリカの空爆に期待の声が高まっていました。イラク政府に対する市民の声は世界に通用しないが、アメリカが動く世界は注目する。イラク市民の窮状を世界に理解してもらうためにはアメリカの行動が必要という認識になっていたのです。そこまで追い詰められていたのです。

国際世論動かず

2014年の4月までに国際世論が動いていればもっと違った局面(アメリカに頼らざるを得ないと考える以外の局面)を生んでいたか

もしれないと私は思います。

もう手遅れでした。米英の人たちが6人、そして、日本人も2人、ISによって斬首されました。ISの理由は「アメリカによる空爆への反撃」でした。



2015憲法フェスタ会場

世界は今大変なことになっているのに、日本に戻ると安穏とした空気がある。情報が流されていない。9条の会の方々からも「知らなかった」という声しか聴けない。でも「知らなかった」では済まされない所まで来てしまっています。

9条守るだけではダメ

私も武力行使には反対です。私が憲法を読んだのは事件の後です。9条の会などたくさんの方から憲法に関する本を贈られ、読みました。私は(その内容に)びっくりはしませんでした。私の中にもその真髄は備わっているなと思ったからです。捕まった時にも相手にその精神を伝えたと考えています。

「9条を守る」だけではないけない状況になってきています。先程安保法制の話がありました。確かにそのようになっています。なんとなくヤバいという雰囲気は今の日本にあると思います。湯川さんと後藤さんが殺されました。私自身も危ないと思っていました。私は、安倍首相がヨルダン、イスラエルで何を言うのか戦々恐々として注目していました。それが人質事件に

重要な影響を与えるのではないかと思っていましたし、そう発言もしていました。その通りになってしまいました。もう武力行使に反対と言うだけでは足りないのです。日本の中が平和なだけでは足りないのです。日本の中でご飯を食べているだけで世界とつながっているの、もはや日本の中にいけば安心と言えない状況になっていると思います。世界は国境なき戦争状態に入っていると思います。その中に日本の平和憲法の精神が全然伝わっていないんですよ。なぜなら安倍さんの前にはマイクがあり、世界につながっていますが、私たちの前にはマイクがないからです。

日本はもはや軍事国家

では、どのようにイラクから日本が見られているかというと、安倍さんがカイロで人道支援の名のもとに、「ISと戦う国々に（金を出す）」と言いました。ISは早速それを取り上げました。NHKの報道を逆手にとってその支援金額と同額を身代金に設定しました。日本国内では、安倍首相に「人道支援」を強調すべきという声が上がったようですが、私は「人道支援」という言葉に不信感があります。私は「人道支援」の名の下に送り出された自衛隊を日本に戻すための人質として捕えられたからです。イラクの友人も「なぜこのタイミングでIS対策の支援金なの？結局イラク政府の戦費に使われ、私たちが殺されるんだよ」と言っていました。

アメリカの影

イラク戦争でアメリカの捕虜となったイラク人がISの幹部となっていると言われます。ドイツの新聞の特集によれば、米軍の刑務所で3年暮らしている間に、ここを出たらやろうぜという仲間作りが行われた、2004年から2007年くらいにISのベースができていたというのです。彼らが出所してISを組織した。2004年にやはり「自衛隊帰れ」の人質にされた日本人が斬首されましたが、その遺体の下には星条旗が敷かれていたのです。（その時から日本は）アメリカの一部と見られていたのです。

本当は親日的

イラクは中東の中でも最大の親日国と言われている。日本人はおもてなしを受けます。少なくともイラク戦争前まではそうでした。しかし、私が捕えられた頃は違っていました。「なぜ日本はアメリカのサポートをするのか」と怒号を浴びました。その後私はイラクの友人を日本に連れてきました。友人と沖縄に行った時、彼は憲法の碑を見ました。そしてこう言いました。「戦争をしないと書いてあるけど、戦争のサポートはいいのかい？」と。周りの日本人は絶句しました。

政府も人権侵害

今、イラク政府に数千人の女性が捕えられ、拷問やレイプを受けたりしています。要求運動にも関わらず政府は応じていません。ISも困るけれども政府も人権侵害どころではないことをやっています。世界は戦争は報道しますが、国内の、

特に政府の蛮行には触れません。不平等過ぎます。この一番肝心な所が欠落しています。そして、ISの残虐性ばかりが強調されます。

（私からすれば残虐性においてはどちらも同じだと思います。）オバマ大統領を先頭に有志連合を率いて、対テロ、対イスラム国だとなります。日本も加わりました。岸田外相が「理解し支持をする」と表明しました。この表明は、ブッシュ大統領がイラク攻撃を開始する際に小泉首相が言った表現とダブリます。

世界にアクションを

もう9条を守るだけではなく、世界に向けて何かアクションをしないとイケない状況になっています。みなさんが9条に抱いている思い程、世界の人たちは9条を重くは受け止めていないと思った方がいいと思います。とっくのとうに形骸化していると思われています。ここ2年くらい安倍さんによる軍事的発言が多くなっています。CNN、BBC、アルジャジーラなどを見ていると、安倍さんの発言が取りざたされています。向こうでは、武器輸出3原則の緩和のニュースの背景に自衛隊のイメージ映像が流されます、数十秒。それが1～2時間の内に繰り返されます。

自衛隊は「日本軍」

3年前にアルジャジーラが「平和主義者の実像」と題して組んだ45分の特集では自衛隊が取り上げられました。富士山をバックに陸上自衛隊がほふく前進してい

る場面やパラシュートで降りてくる場面が映されました。サマワに自衛隊が来るまでは、広島・長崎に原爆が落とされた国、高度経済成長を遂げた国、軍隊を持たない国として日本は捉えられていました。だから、自衛隊がサマワに来たときは驚かれました。アルジャジーラでは自衛隊は「日本軍」と表記されます。それが新しい日本のイメージになります。日本では自衛隊を「抑止力」として海外にアピールしているようですが、残念ながらイラクではそういう風には受け止められていません。これから私たちのように人道支援をしている者たちの危険はますます高まる。それだけではなく、ビジネスマンや留学生、旅行者、住んでいる人の危険性も、イラクだけではなく、シリアやその周辺も含めて世界に広がっていると思います。

国際情勢に関与を

平和憲法を守りたいという意識の上に、もうひとつ、武力行使に代わることをしないとイケない。武力行使をさせないためには、タイミングを逃してはいけない。そのためには国際情勢を知らなくてはイケない。そのためには日本語の情報を集めているだけではだめ。まったく分かりません。英語は大事です。

2014年の4月前に、全国1600もある9条の会のみなさんにイラク政府に抗議をしていただいていたらこのような深刻な状況は防げたと思います。紛争が激化する前に、武力行使に至る前に、一步を踏み出さないとイケないと思います。（終）